

株主通信

Reliability(信頼性)No.1
Your Partner for Success

第81期 中間報告書
2008年4月1日～2008年9月30日



Reliability(信頼性)No.1 Your Partner for Success 収益成長型企業を目指して



株主の皆様には、ますますのご清栄のことお慶び申し上げます。
また、平素は、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
ここに、千代田グループ第81期中間期(2008年4月1日から2008年9月30日)の会社概況についてご報告申し上げます。

2008年度上半期の実績について、海外では既受注大型プロジェクトにおける進捗のピークを過ぎたこと、国内では前年に受注したプロジェクトが業績に寄与するまでの端境期となったことにより、前年度比減収、減益となりましたが、期首目標に対し50%以上の進捗となっております。また、受注については、国内の石油分野やファインインダストリー分野が順調な一方、海外においては将来のLNG案件の基本設計等を中心とした受注となっております。

現在遂行中の大型プロジェクトにつきましては、サハリンIIプロジェクトが本年4月の第1系列に続き、9月中旬に第2系列も試運転準備完了引渡しとなっております。また、年産780万トン級のLNGプラント6系列が同時施工中であるカタールプロジェクトでは、最初の1系列の試運転が始まっております。

昨今の金融経済情勢の急激な変化は少なからず当社にも影響を及ぼすことと懸念しており、就中その受注活動への影響について注視し、適宜の対応をすべく体制を整備しております。また、新中期経営計画については、こうした金融経済情勢の変化の推移も念頭に、当社の強みを発揮できるガス、LNG、環境といった需要が底堅い分野を軸として、新規分野を含む多様性のある業容の実現を目指して策定中であります。

配当につきましては、期首にて発表させて頂いたとおり、来年6月に一株当たり11円の配当を予定しております。株主の皆様におかれましては、一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

久保田 隆(くぼた たかし)

略歴

- 1969年4月 当社入社
- 1995年4月 海外第2プロジェクト本部プロジェクト部長
- 1998年6月 取締役、豪亜プロジェクト総室長
- 2001年6月 常務取締役、海外プロジェクト統括
- 2004年6月 取締役、国内プロジェクト副統括
- 2005年6月 常務取締役、技術統括
- 2007年4月 代表取締役社長

営業の概況

当第2四半期(2008年4月1日から2008年9月30日)においては、海外プラント市場において、エネルギー需要の高まりに対応したプラント建設が引き続き各地で計画され、国内においても、石油・電力・ガス会社による堅調な設備投資が続きました。しかしながら、第3四半期に入り、国際金融危機の影響が実体経済に波及しつつあります。今後とも、当社を取り巻く環境、とりわけ、金融市場の縮小などによる投資の減退の懸念や原油価格の大幅下落の影響につき注視してまいります。

一方、工事遂行面では熟練工事従事者の逼迫などにより厳しい環境が継続していますが、当社グループは、リスク管理の徹底とカタールでのLNG(液化天然ガス)プラント建設を中心とした既受注案件の確実な遂行に全力をあげて取り組みました。

その結果、サハリンでは大型LNGプラントの顧客への引渡しが行われ、カタールでは超大型(年産780万トン級)LNGプラントの最初の1系列が試運転に至るなど、既受注の大型案件が順次完成時期を迎えました。

当第2四半期の連結受注工事高は1,168億10百万円(前年同四半期比35.2%減)、連結受注残高は5,556億99百万円(同39.5%減)となりました。また、連結完成工事高については2,407億60百万円(同23.0%減)、営業利益は69億4千万円(同39.5%減)、経常利益は97億55百万円(同43.6%減)、四半期純利益は60億59百万円(同43.1%減)となりました。

当第2四半期の主な完成案件(*)は出来高部分

国内	<ul style="list-style-type: none"> 西部石油(株)CCR設備建設工事(*) 新日本石油精製(株)水島製油所第1溶剤脱湿装置建設工事(*) 水島エルエヌジー(株)水島LNG基地増設工事(*) 太陽石油(株)RFCC COMPLEX設備建設工事(*) コスモ石油(株)FCCガス回収系能力増強工事(*)
海外	<ul style="list-style-type: none"> カタール向けシェル社パールGTLプロジェクト・ガス前処理プラント(*) カタール向けカタールガス3社及びカタールガス4社LNGプラント第6及び第7系列増設工事(*) カタール向けラスガス3社LNGプラント第6及び第7系列増設工事(*) カタール向けカタールガス2社LNGプラント第4及び第5系列増設工事(*)

受注・完工の状況

天然ガス・電力分野

海外では、産ガス国やエネルギー・メジャー各社によるガス関連への投資が、各地で計画されています。このような状況のもと、当社グループは、大型案件獲得のため、調査業務や基本設計業務の受注に注力し、当第2四半期では、カタールにおけるパルザン陸上ガス処理設備プロジェクトの基本設計・遂行計画立案役務、パプアニューギニアにおけるLNGプラントのデザイン及びEPC(設計・調達・施工)見積り業務、アルジェリアにおけるLNGプロジェクトなどを受注しました。国内電力・ガス業界では、CO₂の削減要請などに伴う原料のLNGへのシフトや、ガス販売事業への展開により、大型LNG受入基地の新増設が計画されており、受注に向けて取り組みました。

石油・石油化学・ガス化学分野

石油分野においては、国内石油製品需要減が見られたもの

の、石油化学製品製造や重質油処理案件の受注は堅調に推移してきました。これに加えて、CO₂削減を主眼としたエネルギーの有効利用・広域連携に係る投資意欲も堅調でした。石油化学分野においては、付加価値の高い機能化学品・ライフサイエンス分野・電子材料などの戦略製品分野へのシフトが鮮明になっています。

一方、石油製品の需要構造変化に即した生産設備投資や、環境対応及び設備診断、保全の効率化等へのニーズは高水準で続きましたので、受注に向けた取り組みを続けました。

一般化学・産業機械分野

一般化学・産業機械分野においては、従来の液晶関連素材

分野に加え、世界的な太陽電池普及政策を反映した関連素材分野への設備投資が増加しています。また、レアメタルの回収に関連した投資も続いています。

医薬品関連分野では、近年の業界環境の変化に対応するため、工場・研究所の新增設をはじめとする設備投資意欲が高まりましたので、グループ会社を含め、好調に受注することができました。

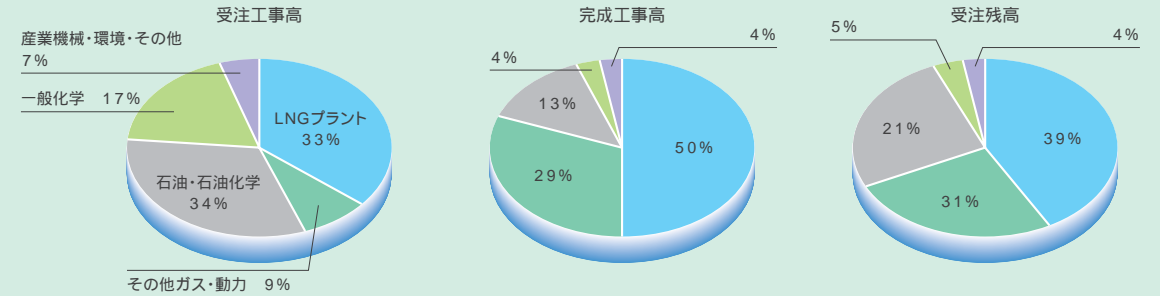
環境・その他分野

環境分野においては、自社開発技術である排煙脱硫プロセス(CT-121)の営業活動を国内外で継続し、同分野をリードする欧州マーケットにて、デンマークの大手電力会社向けに技術供与することができました。

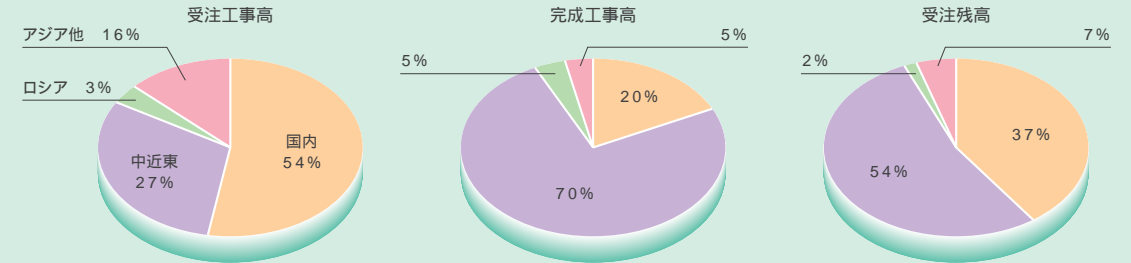


【連結セグメント情報】

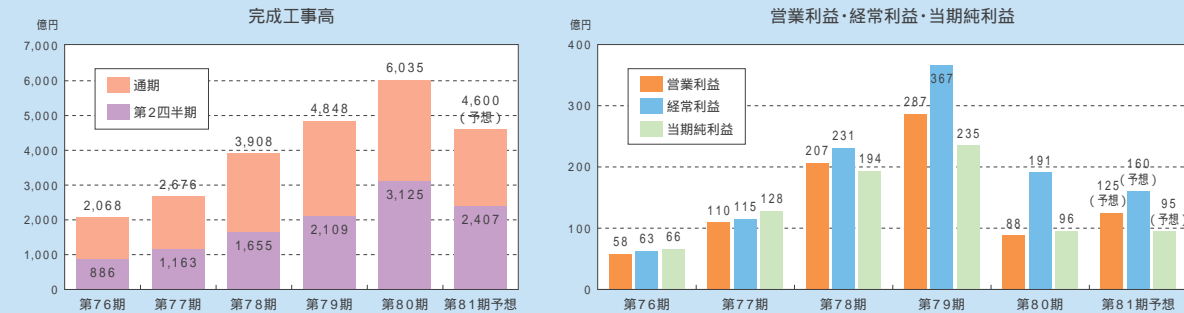
当第2四半期の方野別割合



当第2四半期の地域別割合



【業績の推移】



連結決算レポート

四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	第80期 (2008年3月31日現在)	第81期第2四半期 (2008年9月30日現在)
< 資産の部 >		
流動資産	338,207	340,265
現金預金等*	70,984	116,799
受取手形・完成工事未収入金	36,368	36,486
未成工事支出金	16,801	24,141
JV持分資産	192,683	150,314
その他流動資産	21,374	12,530
貸倒引当金	5	6
固定資産	40,612	39,247
有形固定資産	23,072	22,669
無形固定資産	4,714	4,649
投資その他の資産	12,824	11,928
資産合計	378,819	379,513
< 負債の部 >		
流動負債	293,986	230,932
支払手形・工事未払金	74,037	66,556
1年内返済予定の長期借入金	10,039	10,028
未成工事受入金	185,022	129,558
その他流動負債	24,886	24,790
固定負債	3,196	2,171
長期借入金	22	8
その他固定負債	3,174	2,163
負債合計	297,182	233,103
< 純資産の部 >		
株主資本	83,748	148,694
資本金	12,934	43,389
資本剰余金	6,718	37,105
利益剰余金	65,155	69,291
自己株式	1,059	1,092
評価・換算差額等	2,521	2,679
少数株主持分	410	395
純資産合計	81,637	146,409
負債純資産合計	378,819	379,513

流動資産

第三者割当増資に伴う払い込みなどによる現金預金・譲渡性預金の増加やJV持分資産の減少などにより、流動資産は20億円増加しました。

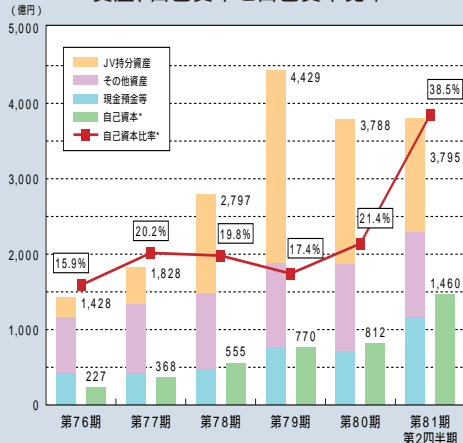
流動負債

手持工事の進捗に伴う未成工事受入金の減少などにより、流動負債は630億円減少しました。

純資産

第三者割当増資に伴う資本金や資本剰余金の増加により、純資産は1,464億円となり、自己資本比率は17.1ポイント上昇し38.5%となりました。

資産、自己資本と自己資本比率



* 第78期以前の自己資本および自己資本比率については、従来の株主資本および株主資本比率を表示しております。

*現金預金等には「譲渡性預金」を含めて表示しております。

四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	第80期第2四半期 自 2007年4月 1日 至 2007年9月30日	第81期第2四半期 自 2008年4月 1日 至 2008年9月30日
完成工事高	312,547	240,760
完成工事原価	295,307	228,070
完成工事総利益	17,239	12,689
販売費及び一般管理費	5,819	5,785
営業利益	11,420	6,904
営業外収益	6,332	3,421
営業外費用	449	570
経常利益	17,303	9,755
特別利益	726	123
特別損失		521
税金等調整前四半期純利益	18,029	9,357
法人税、住民税及び事業税	5,002	747
法人税等調整額	2,377	2,538
少数株主利益	7	11
四半期純利益	10,641	6,059

完成工事高

海外での手持大型プロジェクトの進捗のピークが過ぎたことにより、前年同期比23.0%減少しました。

営業利益

完成工事高の減少に伴い、前年同期比39.5%減少しました。

経常利益

営業利益の減少に加え、JV持分資産の運用利息が減少したため、前年同期比43.6%減少しました。

四半期純利益

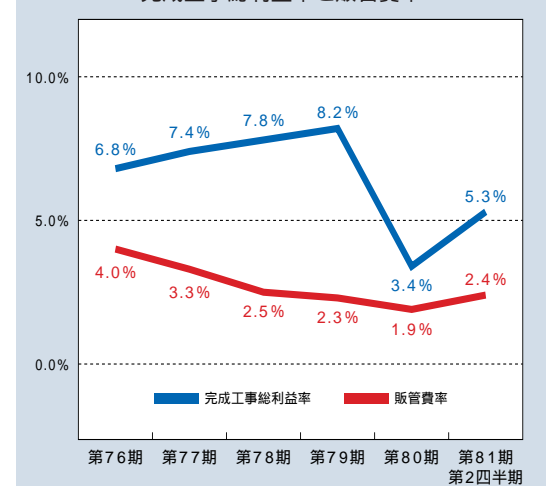
前年同期比43.1%減少しました。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	第80期第2四半期 自 2007年4月 1日 至 2007年9月30日	第81期第2四半期 自 2008年4月 1日 至 2008年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,883	11,900
投資活動によるキャッシュ・フロー	117	41
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,050	58,584
現金及び現金同等物の四半期末残高	72,329	116,734

完成工事総利益率と販管費率



超大型LNG(液化天然ガス)プロジェクト 相次ぎ完成へ

世界最大のLNGプラント試運転開始

当社はカタールで「世界最大のLNGプラント(年産780万トン)」合計6系列を建設中ですが、先行しておりましたカタールガスII社向け第4系列の顧客引渡しに順次スタートし、ガス田からの天然ガス導入が開始され、試運転が始まりました。本LNGプラントは大変巨大であり、その液化設備の長さは新幹線のぞみ号(16両編成、400m)の約1.5倍にもなります。更に来年からは、同規模のプラントが続々と完工を迎える予定であり、全力をあげて建設を進めています。

今回の成功事例により、当社グループは高効率・高信頼性をもつ大型LNGプラント建設におけるリーディングカンパニーの地位を確立できたと確信しております。



完成期を迎えるカタールのLNGプラント

ロシア初のLNGプラント完成!

2008年9月、厳寒の地サハリンにロシア初のLNGプラントが完成しました。

一基当たり年産480万トンが2基、合計960万トンのLNG



引渡しを完了したサハリンのLNGプラント

プラント及びLNG出荷設備、並びに原油出荷設備(10万キロリットル・タンク2基)です。

2002年10月に初期設計契約を、そして2003年6月に

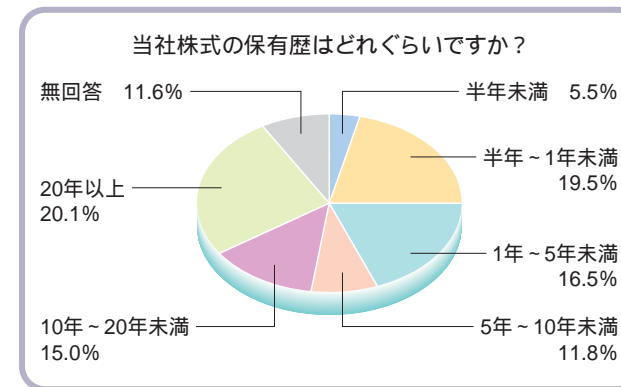
EPC(設計・調達・施工)契約を調印して以来、関係者一同の努力・奮闘と関係各社の協力により、ロシアで初のLNGプラントが完成しました。

千代田にとってもロシアでのLNGプラント建設は初めてであり、未知の領域ではありましたが、厳しい自然条件とロシア独特の難しさを克服し、2000万時間を超える無事故・無災害記録を達成しつつ無事完成できたことは、当社のプロジェクト遂行能力の高さを世界に示すものです。

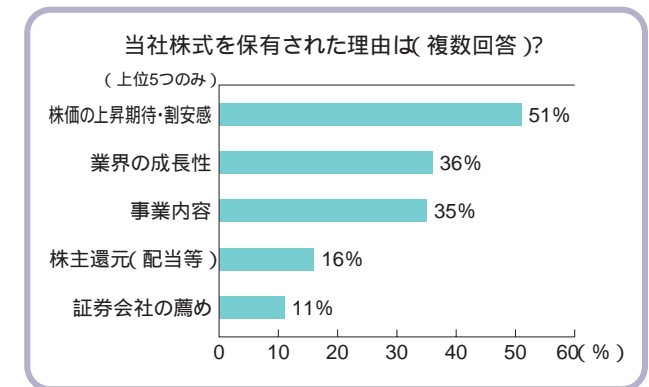
株主様アンケート結果のご報告

(回答総数1,050通)

第80期株主通信にてお願いいたしました株主様アンケートでは、多くの方からご返答をいただきました。ご協力いただきました皆様に対し深く御礼申し上げますとともに、お寄せいただきましたご回答の一部を報告いたします。頂戴いたしました貴重なご意見を参考に、更なる企業価値の向上を目指し、今後とも努力してまいります。



10年以上保有の方が約35%を占め5年以上の方もあわせると半数に迫り、当社株式を比較的長期間保有されている方が多いと見受けられます。



所有されている理由として、半数以上の方に株価の上昇期待・割安感を挙げていただくとともに、業界の成長性や事業内容にも比較的高い水準でご注目をいただいております。

Q&A お寄せいただいたご質問に回答いたします。

Q1. カタールでは厳しい工事遂行環境のもと収益が悪化したとありましたが、その後の状況に変化は見られるのでしょうか?

A1. 熟練工事従事者の逼迫をはじめとしたカタールの厳しい工事遂行環境は、依然として予断を許さない状況であります。しかしながら、当社はコスト増加対策などのリスク管理を徹底することに加え、厳しい工事遂行環境についての理解を顧客と共有し、コミュニケーションを図りながら工事遂行に注力しております。先述のとおり、最初の1系列の試運転開始を皮切りに、同国で建設中の超大型LNGプラントは順次完成時期を迎えております。

Q2. 今後、千代田の技術力をどのように飛躍・展開させようと考えていますか?

A2. 当社の技術力には、世界最大級の大型プラントを確実に実現させていくプロジェクト遂行力と各種要素技術の二面があります。遂行面ではカタールの実績の展開を計っていくとともに、要素技術面では、欧米やアジアなどへ展開させている排煙脱硫プロセスCT-121、天然ガスを改質し合成ガスを製造するCO2改良プロセスの開発、将来の水素エネルギー社会への対応のための水素輸送/貯蔵システム及び脱水素触媒の開発などに取り組んでおります。

会社概要 (平成20年9月30日現在)

設立	昭和23年1月20日
資本金	43,389,214,450円
主要な営業所及び事務所	国内営業所 横浜、大阪 国内事業所 鹿島、愛知、四日市、倉敷 海外調達拠点 イタリア、韓国 海外営業拠点 インドネシア、中国、インド、フィリピン、シンガポール、マレーシア、ミャンマー、オーストラリア、カタール、アラブ首長国連邦、サウジアラビア、ナイジェリア、オランダ、アメリカ合衆国 研究開発センター 横浜
従業員(在勤数)	単体従業員数 1,289名、連結従業員数 3,145名
当社及び主要なグループ企業の事業内容	ガス、電力、石油、石油化学、一般化学、医薬品等の産業用・民生用設備並びに公害防止・環境改善及び災害防止用設備等に関するコンサルティング、計画、設計、調達、施工、試運転及びメンテナンス等の総合エンジニアリング事業

主要なグループ企業の事業内容 (平成20年9月30日現在)

エンジニアリング事業	工事遂行 千代田工商株式会社(横浜市) 千代田計装株式会社(横浜市) 千代田テクノエース株式会社(横浜市)
コンサルティング・人材派遣業	千代田ユーテック株式会社(横浜市)
先端エンジニアリング	千代田アドバンス・ソリューションズ株式会社(横浜市)
海外設計拠点(GES)	千代田フィリピン・コーポレーション(フィリピン) エル・アンド・ティー・千代田リミテッド(インド)
海外工事遂行拠点	千代田シンガポール・プライベート・リミテッド(シンガポール) ビー・ティー・千代田インターナショナル・インドネシア(インドネシア) 千代田タイランド・リミテッド(タイ) 千代田マレーシア・センドリアン・ベルハッド(マレーシア) 千代田&パブリック・ワークス・カンパニー・リミテッド(ミャンマー) 千代田ベトロスター・リミテッド(サウジアラビア)
海外営業拠点	千代田インターナショナル・コーポレーション(米国) 千代田ナイジェリア・リミテッド(ナイジェリア)
その他の事業	アロー・ビジネス・コンサルティング株式会社(横浜市) アローヘッド・インターナショナル株式会社(東京都港区) ITエンジニアリング株式会社(横浜市) 株式会社アローメイツ(横浜市)

連結子会社 関連会社で特分法適用会社

役員 (平成20年9月30日現在)

取締役会長	関 誠 夫
代表取締役社長	久保田 隆
代表取締役副社長	菅野 洋一
代表取締役副社長	柴田 博至
取締役副社長	亀井 信寧
代表取締役専務取締役	香田 圓
常務取締役	源 淳郎
常務取締役	中島 純夫
常務取締役	横井 悟
常務取締役	小川 博
取締役	白木 清司
常勤監査役(社外監査役)	井田 浩史
常勤監査役	下野 涉
常勤監査役(社外監査役)	伊東 正則
監査役(社外監査役)	今出川 幸寛
常務執行役員	三枝 隆治
常務執行役員	小林 秀夫
執行役員	長田 文雄
執行役員	篠原 英宏
執行役員	川瀬 健雄
執行役員	柿崎 剛
執行役員	今原 收
執行役員	島田 浩
執行役員	山下 栄作
執行役員	大沼 敏行
執行役員	白川 公一
執行役員	上地 崇夫
執行役員	木村 克俊
執行役員	三谷 学

大株主の状況 (平成20年9月30日現在)

株主名	当社への出資状況	
	所有株式数	持株比率
	千株	%
三菱商事株式会社	86,931	33.40
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	9,130	3.50
株式会社三菱東京UFJ銀行	9,033	3.47
三菱UFJ信託銀行株式会社	8,033	3.08
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	7,238	2.78
モルガンホワイトファイヤーズエキイティデイルイグエイティヴ	5,780	2.22
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4G)	4,648	1.78
ジービーエムシーピーオムニバスコーエスベンシヨントリーティージャスデツク380052	4,251	1.63
ザバンクオブニューヨーク・トリティー・ジャスデツクアカウント	3,859	1.48
東京海上日動火災保険株式会社	2,760	1.06

【平成21年1月5日施行の株券電子化実施に伴うお知らせ】

1. 特別口座について

(1) 特別口座への口座残高の記帳

株券保管振替制度をご利用でない株主様につきましては、ご所有の株式は三菱UFJ信託銀行に開設される特別口座に記録されます(平成21年1月26日に記録される予定です)。なお、特別口座に記録された株式数等のご案内は、平成21年2月中旬頃に、三菱UFJ信託銀行から、お届けのご住所宛にお送りする予定です。

(2) 特別口座に記録された株式に関するお手続き

特別口座に記録された株式に関するお手続き(株主様の口座への振替請求・単元未満株式買取請求・お届出住所の変更・配当金の振込指定等)につきましては、株券電子化実施後、下記口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)の連絡先にお問合せください。なお、特別口座に記録された株主様のお手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行の全国本支店でお取次ぎいたします。

(3) 特別口座の口座管理機関および連絡先

特別口座の口座管理機関は、当社株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行となります。

口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 tel 0120-232-7111(通話料無料)

(4) 特別口座の口座管理機関でのお手続きの受付の開始時期

特別口座に記録された株式についての、株主の口座への振替請求、単元未満株式買取請求等の各種ご請求やお届出につきましては、平成21年1月26日(月)以降にお手続きが可能となりますので、ご注意ください。

2. 株券電子化前後における単元未満株式買取請求について

株券電子化の前後においては、単元未満株式買取請求につきまして、以下のとおりとなりますので、ご注意ください。

(1) 保管振替制度をご利用でない単元未満株式

平成21年1月5日(月)から平成21年1月25日(日)までは、受付をいたしません。

また、平成20年12月25日(木)から12月30日(火)までのご請求受付分につきましては、買取価格をご請求受付日の終値を適用いたしますが、買取代金のお支払いを平成21年1月30日(金)とさせていただきます。

(2) 保管振替制度をご利用の単元未満株式

株券電子化実施の前後において、一定期間お取引の証券会社で取次ぎを行わないと承っております。

具体的な日程につきましては、証券会社により異なることが考えられますので、お取引の証券会社にお問い合わせください。

3. 株主様のご住所およびお名前のご登録について

株主様のご住所およびお名前の文字に、振替機関(証券保管振替機構)で指定されていない漢字等が含まれている場合には、その全部または一部を振替機関が指定した文字に置き換えのうえ、株主名簿にご登録いたします。この場合、株主様にお送りする通知物の宛名は、振替機関が指定した文字となりますのでご了承ください。

<ご参考>

株券電子化に関する詳細につきましては、証券決済制度改革推進センターのホームページに掲載されたQ&A(<http://www.kessaicenter.com/kaikaku/kabuken10aa.pdf>)等をご参照ください。

また、株券電子化に関するご質問・ご相談は、「株券電子化」なんでも相談窓口(「株券電子化コールセンター(*)」) tel 0120-77-0915(通話料無料。平日・土曜/9:00~17:00)までお問い合わせください。

(*)株券電子化コールセンターは、(株)証券保管振替機構、日本証券業協会、(株)東京証券取引所が共同で運営する株券電子化についての相談窓口です。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主 確定日	3月31日
定時株主総会	毎年6月開催
一単元の株式の数	1,000株
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 フリーダイヤル 0120-232-711
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店(下記ご注意ご参照)

【株式に関するお手続き用紙のご請求について】

株式に関するお手続き用紙(届出住所等の変更届、配当金振込指定書、単元未満株式買取請求書等)のご請求につきましては、以下のお電話ならびにインターネットにより24時間受け付けておりますので、ご利用ください。なお、株券電子化実施後は、特別口座に記録された株式についてのお手続き用紙のみとなりますので、ご注意ください。

tel 0120-244-479 (通話料無料)
インターネットアドレス <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
証券コード	6366
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.chiyoda-corp.com/ (ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)株主名簿管理人の「取次所」の定めについて

株券電子化後、株主様の各種お手続きは、原則として口座を開設されている証券会社経由で行っていただくこととなるため、株主名簿管理人の「取次所」は、株券電子化の実施時をもって廃止いたします。

なお、未受領の配当金のお支払いにつきましては、引き続き株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行の本支店でお支払いいたします。

また、野村證券株式会社は、株券電子化実施後、当社株式につき、株主名簿管理人および特別口座管理機関としての取次業務を致しませんのでご注意ください。



CHIYODA CORPORATION

千代田化工建設株式会社

本店 〒230-8601 神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央二丁目12番1号
電話 045-506-7105 FAX 045-506-7109

<http://www.chiyoda-corp.com/>